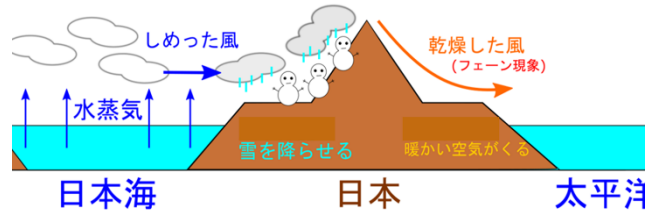


「SS-Science Camp II」を実施しました

実施日：令和3年10月16日（土）～10月17日（日）

普通科2年次生SSHコース（参加者6名）を対象として富山県立山・黒部ダムにて研修を行いました。例年は3泊4日の日程で夏におこなっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け1泊2日の日程で10月となりました。

立山は標高3,000m級の峰々が連なる北アルプスを貫く世界有数の山岳観光ルートです。総延長37.2km、最大高低差は1,975m。そのほぼ全区間が中部山岳国立公園内にあります。環境としては偏西風による強風と、日本海の湿った空気が山にぶつかりすることで一年中雨や雪が多い地域となります。その立山の成り立ちと地質学、また環境による植生の観察を行いました。



雄大な姿で迎えてくれた立山の迫りに圧倒されながら登山道を進んでいきました。溪谷のように鋭い谷ではなく、緩やかな谷を形成しているのは氷河（雪が固まり氷となったものがゆっくり動く）により山が少しずつ削られてできたためです。風が強く、気温も低いため背の高い植物は生えていません。ハイマツ（地を這うように生えているマツ）や草本類などが多い典型的な高山植生です。夏には高山植物の花が多く観察できます。

立山に現存する氷河研究の第一人者で立山カルデラ砂防博物館の福井講師によるレクチャーです。立山の成り立ちや地質、そして今でも活火山であることなど専門的な話をライブで聞いたことは、生徒にとってとても貴重な体験となりました。そして我々の登山を安全にサポートしてくれているのは山岳ガイドで、元プロスノーボーダーの水間さんです。



2日目は富山県の初雪となりました。気象のスペシャリスト武田先生による雪の講義です。きれいな雪の結晶に生徒は興奮しながら必死で写真を撮っていました。今年は天候によりできませんでしたが、武田先生による天体観測はプラネタリウムをはるかに超える素晴らしい体験です。来年はぜひ開催したいと思います。

黒部ダムでは圧倒的な迫力と、建設当時の苦労や多くの方が亡くなったことを学びました。またアーチ状の構造により水流のエネルギーを分散させて耐久性を上げていることや、発電についても知ることができました。破碎帯（断層のずれ）に染み出た水は冷たく、当時の工事従事者が悩んだことに思いを馳せました。



